

平成 24 年度第 2 回 美浜区区民対話会
議事録

日時 平成 25 年 2 月 2 日 (土)
午後 1 時 30 分 ~ 3 時 30 分
場所 美浜区役所 4 階講堂

○司会

大変お待たせいたしました。本日はお忙しいところご出席いただきまして、ありがとうございます。定刻となりましたので、ただいまから「平成 24 年度第 2 回美浜区区民対話会」を開会いたします。

本日の司会を務めさせていただきます美浜区地域振興課地域づくり支援室長の立石と申します。よろしくお願いいたします。

本日は、3 名の方が本会議の傍聴にお越しいただいておりますので、皆様にご報告いたします。

本日は、資料とは別にアンケートを机の上にお配りしてございます。こちらにつきましては、今後の区行政の参考とさせていただきます。対話会終了後に回収箱をこちらで準備しております。退室される際に出口のところに置いておきますので、こちらの中に入れていただきますよう、よろしくお願いいたします。

なお、本日の対話会ですけれども、記録のために音声の録音及び写真撮影をさせていただきます。また、議事録及び写真につきまして、区のホームページ等に掲載させていただきますので、ご了承をお願いいたします。

なお、傍聴の皆様におかれましては、受付で配付いたしました傍聴要領をお守りいただきまして傍聴いただきますよう、よろしくお願いいたします。

それでは、次第に従いまして進行させていただきます。

まず初めに、美浜区長の土屋からご挨拶申し上げます。

○美浜区長

皆様こんにちは。区長の土屋でございます。本日はお休みにもかかわらず、お忙しい中、このように美浜区の区民対話会にお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。今日お集まりいただきました皆様は、日ごろより地域におかれまして、子育てや子どもたちの健全育成にさまざまな意味でご尽力されている方だと伺っております。この場を借りて日ごろのご協力、ご支援に感謝を申し上げる次第でございます。

本日の区民対話会のテーマでございますが、「子育て世代に魅力あるまちづくりについて」ということになっております。これは、背景は後ほど説明があると思いますが、実は美浜区は、ご存じのとおり昭和 50 年代から入居が始まりまして、当時、働き盛りだった方が高齢者になりました。しかしながら若い方々が極めて少なくなっているという現状がございます。現在ですと高齢者の数が子どもさんの数を上回っている状況でございます。高齢者が増えることは別に問題はないのですが、その率が問題でございます。よくこの率は「高齢化率」という言葉であらわされております。実は美浜区は若い若いと言われていますが、局所的に見ますと、この高齢化率が 40%を超えている地域がございます。10 人のうち 4 人が 65 歳以上の方というような地域がございます。こういうところでは若い方が極めて少ないという状況がございます。このままでまいり

ますと、いわゆる支える世代が少なくなってしまうということで、何とか若い方々をもう一度この美浜区に呼び戻そうということで、今回この対話会を開催させていただきます。

この対話会は実は平成 22 年度から始めていまして、目的としましては、皆様からのご意見やご希望を我々がじかに聞くことによりまして、それをいかに市の行政に反映していくかということで始めたものでございます。今日は、そういう意味から対話会の趣旨をご理解いただきまして、本当に皆様、日ごろからいろんなことにご尽力されていますので、忌憚のないご意見を私どもにいただければと思います。

今日は、いつもに増して気温が非常に高いです。しかしながら、あしたは節分、このままでいくと月曜日から立春ということになりますけれども、されどまだまだ寒い日が続きますので、皆様におかれましては、風邪など召さぬようにお気をつけいただきたいと思っております。

そういうことございまして、本日はどうぞ忌憚のないご意見を賜りたいと思っておりますので、短い時間ではございますが、よろしくどうぞお願い申し上げます。

○司会

本日は、小学校、中学校の PTA の方々、それと青少年育成委員会、育児サークルなどの中から合計 24 名の出席をいただいております。突然で申しわけありませんが、ここで皆様から所属とお名前など一言ずつ、自己紹介いただければと思います。真砂中学校 PTA の A 様から時計回りをお願いしたいと存じます。お願いいたします。

○参加者 A

こんにちは。今、真砂中学校 PTA の会長をしています A といいます。美浜区はたくさん小学校・中学校がありますが、PTA の加入校がなかなか少なく、今日は 2 校参加いただいておりますが、うちのほうも一昨年から統合になりまして、新しいスタートを切っております。どうぞよろしくようお願いいたします。

○参加者 B

真砂中学校 PTA の副会長をさせていただきます B と申します。どうぞ今日はよろしくようお願いいたします。

○参加者 C

同じく真砂中学 PTA の副会長をさせていただきます C と申します。今日はお世話になりますが、よろしくようお願いいたします。

○参加者D

真砂西小学校 PTA 会長を務めさせていただいておりますDと申します。今日はよろしくお願ひいたします。

○参加者E

真砂西小学校 PTA 副会長のEです。よろしくお願ひいたします。

○参加者F

打瀬中学校区青少年育成委員のFです。よろしくお願ひします。

○参加者G

同じく打瀬中学校区青少年育成委員をやらせていただいておりますGと申します。よろしくお願ひいたします。

○参加者H

同じくHと申します。よろしくお願ひいたします。

○参加者I

打瀬地区 4 校の代表で参加させていただきました海浜打瀬小学校「海浜打瀬の会」のIと申します。今日はよろしくお願ひいたします。

○参加者J

幸町第一中学校の育成委員をやらせていただいておりますJです。よろしくお願ひいたします。

○参加者K

幕張西中学校区青少年育成委員をしておりますKと申します。青少年相談員のほうもしております。あと幕張西小学校の PTA 会長もしております。よろしくお願ひいたします。

○参加者L

高洲第二中学校の保護者会をしておりますLと申します。よろしくお願ひいたします。

○参加者M

高浜中学校区育成委員会のMと申します。今年度から新しく合併で発足しました高浜海浜小学校の「保護者と教職員の会」の会長もしております。また、美浜区という意味

で言いますと、地域のなぎさ保育園という保育園の保護者会の会長をしていたり、あと高洲地区子どもルームという学童保育、こちらのほうも父母会の会長をしていたり、あとは社会体育振興会の理事をやっていたり、来年度から青少年相談員と決まっていたり、いろいろやっていますけれども、どうぞよろしくお願いいたします。

○参加者N

稲浜中学校区育成委員会のNです。今日はよろしくお願いいたします。

○参加者O

稲浜中学校区育成委員のOです。稲毛第二小学校でPTA副会長をしております。よろしくお願いいたします。

○参加者P

磯辺第二中学校区育成委員会のPです。よろしくお願いいたします。

○参加者Q

真砂中学校区の育成委員会に一昨年までいました。4年前から、美浜区のアスレチック公園がありますけれども、そちらでプレーパークという活動をしています。Qです。よろしくお願いいたします。

○参加者R

皆様、こんにちは。幸町の幸町公園というところをお借りしまして、月に2回、子どもの遊び場でハッピータウンプレーパークという遊び場を展開しております代表のRと申します。お世話になります。よろしくお願いいたします。

○参加者S

Sと申します。私は、「ひよこくらぶ」という幼稚園に行くまでのお母さんと子どものサークルをしております。それから、605地区の千葉市主任児童委員をやっておりまして、それから高浜中学校区の育成委員をしております。

私も、このところ育児サークルで子どもたちの集まりがすごく悪くて、幼稚園とかがしのぎを削っている現状とか、保育所に行ってお母さんたちが働かなきゃいけない状況を日々憂いており、そういう状況で今日は参加させていただきました。よろしくお願いいたします。

○参加者 T

こんにちは、Tです。社会福祉協議会幕張西地区で「ひよこの会」というサークルをやっております。育成委員会にも所属しております、606 地区の主任児童委員もやっております。よろしくお願いいたします。

○参加者 U

こんにちは。社会福祉協議会の真砂地区部会児童母子福祉委員長をやっておりますUと申します。育児サークルを担当しています。よろしくお願いいたします。

○参加者 V

607 地区で民生委員をしていますVと申します。よろしくお願いいたします。真砂地区で子育てサークルをやっております。今日はよろしくお願いいたします。

○参加者 W

社協の磯辺地区部会の児童母子委員会の育児サークルを担当しておりますWと申します。よろしくお願いいたします。

○参加者 X

社協の磯辺地区の児童母子の育児サークルを担当させていただいていますXです。よろしくお願いいたします。

○司会

ありがとうございました。本日はよろしくお願いいたします。

それでは、引き続きまして、区役所事務局の職員の紹介をしたいと思います。

副区長兼地域振興課長の和田でございます。

美浜保健福祉センター所長の大木でございます。

美浜区こども家庭課長の秋葉でございます。

美浜区健康課長の山岸でございます。

地域振興課くらし安心室長の井下田でございます。

同じく、地域づくり支援室主査の小玉でございます。

地域づくり支援室の杉田でございます。

同じく、下村でございます。

それでは、続きまして、美浜区における現状等について、地域振興課地域づくり支援室の小玉よりご説明をいたします。

準備にお時間がかかりますので、少々お待ちください。

(パワーポイントを用いて説明)

○地域づくり支援室 主査

まずは、今日皆様の意見をいただく前に、美浜区の人口動態の変化などについてご説明をいたします。

最初に、千葉市の推計人口の変化でございます。この折れ線グラフの数字は千葉市人口動態等基礎調査報告書より出典したものですけれども、平成12年から平成47年までの人口の見通しをグラフで示したものです。この表には示していませんが、日本の人口は2005年(平成17年)より既に減少傾向にあります。千葉市の人口は転入によります社会増により平成27年に約97万人に達しますけれども、その後は減少に転じる見込みでございます。

次に、美浜区の人口の見通しでございます。この折れ線グラフは平成5年から平成47年までの人口の見通しを示してございます。美浜区の人口は平成10年から平成20年にかけて急激に人口増が見られます。ただし、平成30年の15万1,000人を頂点にしまして、その後減少に転じる見込みでございます。

次は、0歳から14歳、15歳から64歳、65歳以上、この3世代に分けた折れ線グラフになっておりまして、平成5年から平成24年までの推移を示してございます。緑色の老年人口は右肩上がりでありまして増加を続けておりますが、赤色の生産年齢人口、青色の年少人口とも減少トレンドに移行してございます。

次は、町別に平成24年3月現在の人口及び3世代別の人口区分につきまして棒グラフで示したものでございます。こちらのグラフからは、住宅の開発時期の早い地区、高洲、真砂、幸町、磯辺、こちらの地区につきまして老年人口の多い傾向が見られます。

次は、前のグラフを割合に直したグラフでございます。こちらのグラフからは、特に磯辺地区に約3割老年人口がおりまして、年少人口が1割ちょっとしかいないような状況になっているのがわかります。

次の折れ線グラフにつきましては、10歳刻みの年齢階層別、5世代に分けて平成5年から平成24年までの美浜区の人口推移を示したものでございます。特徴的なことは、大体減少のトレンドになっているのですけれども、現在40代と60代、こちらがいまだに上昇を続けていることがわかります。

次に、区の中で特別な動きを見せる打瀬地区の年齢階層別の平成5年から平成24年までの人口推移を示したグラフでございます。こちらの特徴的なことは、30代を除きまして増加しているような状況がありますけれども、30代だけ、平成20年までは上昇していたのですけれども、その後は下降に転じてございます。

次に、高齢化が顕著な磯辺地区の年齢階層別、こちら5世代別の平成5年から平成24年までの人口推移をグラフで示したものでございます。40代と60歳を除くほかの年齢階層は全て減少トレンドになってございます。

次は、地区別に人口動態の特徴を色分けしたものでございまして、赤いところが人口

の減少傾向です。磯辺、幸町、高洲、高浜、真砂、幕張西、こちらが若年層が減少しているエリアになります。若年層が増加しているエリアが打瀬と浜田です。ただ、稲毛海岸だけは、例えばクラウドシティの開発に伴いまして、ちょっと特殊な傾向を示してございます。

若年層が減少しているような状況がございますので、呼び戻し策について考えてみました。企業誘致による雇用確保とか集客施設の誘致などが方策として考えられます。働く場の不足を解消することが若年層の呼び戻しの呼び水となるのですが、美浜区は埋め立てにより生み出された地域でございまして、計画的につくられたまちであることから、空きスペースがなかったり、都市計画の用途制限等がございまして、企業や集客施設の誘致を進めることが困難な状況でございます。

また、新しい住宅の建設について、低廉で良質な住宅の確保策が若年層の呼び戻しの切り札的な方策と考えられるのですが、新たに建設する宅地の確保が困難な状況でございます。

区内に企業庁の所有する土地もあるのですが、企業庁につきましては平成 24 年度で解散予定でございまして、開発の可能性の余地もあるのですが、先行きがかなり不透明な状況になってございます。

そのほか、例えば大学の誘致も考えられるのですが、こちらについては少子化が進んでいますので、大学の経営が難しくなったり、そういうこともあると思います。このような状況から、子育て環境の充実が実行可能で効果的な方策と考えられます。

こちらの図は、参考に都市計画図を載せてございます。茶色の商業地域、紫色の工業地域、その他住居地域と色分けしてありますけれども、商業地域や工業地域には新たに開発できるようなスペースはないような状況になっております。

次に、美浜区の子育て施策の現状について簡単にご説明いたします。

まず、海浜病院がございまして。こちらは平成 22 年 5 月に市内で唯一の地域周産期母子医療センター、妊娠 22 週から生後満 7 日未満の期間ですけれども、そういう期間を対象としまして母子医療センターとして認定を受けてございます。こちらについては産科と新生児科の両方を備えまして、妊娠中毒症等の高リスクな分娩や新生児医療の受け入れが可能となってございまして、24 時間体制で市内の産科救急を一手に担っております。

こちらは保育所の待機児童数の推移でございまして。各年 4 月 1 日現在の待機児童数、茶色いところが千葉市全体の待機児童数の推移で、青いところが美浜区の待機児童数の推移でございまして。直近の平成 24 年には、美浜区におきましては待機児童数 4 名ということになってございます。

次に、保育所待機児童解消のための取り組みでございまして。こちらについては、平成 23 年から市のほうも「こども未来局」を創設しまして、かなり積極的に取り組んでおります。「待機児童解消に向けたアクションプラン 2010」に基づきまして、施設整備等、民間保育園の整備によって定員の拡大を図ってございます。千葉市のトータルで平成 24

年4月が1万1,278人だったのが、今年の4月には1万1,913人ということで、635人の定員増となる予定でございます。美浜区につきましては、新たな施設が1施設設置されるのと、定員増される施設が2施設ございまして、今年度の1年間で65人の定員増となります。

こちらは、子どもルームの利用児童数等の推移でございます。子どもルームにつきましては、小学校1年生から3年生までの児童を対象に授業終了後に預かっているのですが、一番上の緑色の数字が利用児童数、青い折れ線が施設数、茶色の折れ線が待機児童数ということで、直近の平成24年の4月1日には6,464人の利用者数、121カ所の施設数、96人の待機児童数となっております。今後としますと、全部の小学区に少なくとも1施設をつくるという整備方針に従って行っております。

こちらは、美浜区に限定した子どもルームの利用児童者数等の推移でございます。一番上の緑色が利用児童数、こちらが平成24年の4月1日時点で1,318人、青い折れ線が施設数で22カ所、一番下の茶色い折れ線が待機児童数ということで20名ということで、若干また上昇しているような傾向になっております。

こちらは、子ども医療費助成を説明した表でございます。市町村によっていろいろ差はあるのですが、千葉市の場合は0歳児から小学校3年生まで通院と入院に限り、通院1回につき300円、入院1日につき300円の保護者負担。あと、小学校4年生以上中学校3年生までは、入院に限り、入院1日につき300円の保護者負担ということで助成がございまして。

次に、「こどもカフェ」ということで、子どもの居場所づくりの事業でございまして、平成23年度から始まっております。市内には2カ所ございまして、高洲地区と園生地区がございまして。高洲地区につきましては月に4回、日曜日限定ですけれども開設してございまして。利用実績につきましては、23年10月から24年3月まで20回開催しまして延べ244名、平成24年の4月から平成25年の1月まで40回開催しまして、延べ688人ということで、こちらは植草学園に委託して運営してございまして。

こちらは、千葉市子ども・若者総合相談センター、「Link」という名称ですけれども、平成24年8月にオープンしまして、ニート、ひきこもり、不登校等の問題を抱える子ども・若者と、その家族の相談に対応する内容でございまして。こちらにつきましては、専門の相談員がおりまして、必要な情報の提供や助言、適切な専門機関の紹介や橋渡しなどを行っております。千葉市子ども・若者支援協議会と連携しまして、円滑な社会生活の実現に向け、効果的、継続的に支援してございまして。場所は青少年サポートセンターの西分室の中にならっております。

次は、窓口のほうに一番多い要望を確認しまして、こちらにあらわしてございまして。内容は子どもルームと保育所の関係の要望が多い状況でございまして。

まず、子どもルームですけれども、最近の大規模な住宅建設によりまして、子どもの数が増加しており、定員の増加が追いつかない状況でございまして。もう一点、小学校の

統廃合によりまして、廃校地にあるルーム、例えば旧真砂第一小学校にルームがあるんですけれども、そちらは跡施設として活用される予定でございます。そういうところが敬遠されがちで、新設校地にあるルームのほうを希望するというような声が多く上がっております。

保育所につきましては、近隣の保育所が満員で遠方の保育所に預けざるを得ないということで、これは当然送り迎えに労力を要します。あとは、認可保育所が満員のため、認可外保育施設に預ける場合がありますけれども、認可外保育ですと園庭がないような施設も多くて、特に3歳以上の遊び盛りのお子さんをお持ちの保護者からは敬遠されがちな状況でございます。

こちらは、参考に真砂地区の小中学校の統合の図を示してございます。まず、真砂中学校につきましては、従前の真砂一中と真砂二中が統合されまして真砂中学校になります。次に、真砂四小と真砂一小が統合されまして新たに真砂東小学校になりました。あと、真砂三小と真砂二小が統合されまして西小ということになります。このように、真砂地区と、特に美浜区ですと幸町等で小中学校の統廃合が進んでいるような状況でございます。

以上でございます。

○司会

ただいまの美浜区における現状等につきまして、何かご質問等はございますでしょうか。ありましたら挙手をいただきたいと思います。よろしいでしょうか。

この後、意見交換の場を設定してございます。その際にあわせてご質問をいただければと思います。

では、次に移りたいと思います。

次は、事務局から事前アンケートの説明ということで、今回出席に当たりまして事前にアンケートのほうを皆さんに頂戴いたしました。そちらを取りまとめたものをお手元に資料として配付してございますが、事前アンケートまとめにつきまして、地域づくり支援室の杉田より説明があります。よろしく申し上げます。

(配付資料により説明)

○地域づくり支援室 担当

事務局の地域づくり支援室、杉田でございます。今回の区民対話会のテーマであります「子育て世代に魅力あるまちづくり」に関しまして、参加者の皆様に事前のアンケートをお願いしたところでございます。この事前アンケートの回答を取りまとめたので、その内容を簡単に説明させていただきます。

本日配付しております A4 両面の「事前アンケートまとめ資料」をごらんください。ご回答いただきました皆様方からは、今後子育て世代に魅力ある美浜区とするためのた

くさんのご意見・アイデアなどをいただきました。多くのご意見等をいただき、まことにありがとうございました。

アンケートでは、3つの項目に分けて皆様方からご回答いただいております。

1つ目としまして、千葉市の子育て施策について、「充実・充足していると感じるもの」「足りないと感じるもの」に関してでございます。

充実していると感じるものとしましては、一番多かったのが「子育て支援・教育施設」、次いで「医療費の支援」、その他としまして「子育ての相談先」「行政（区）と区民の対話の場」「地域のイベント」がございました。

一方、足りないと感じているものとしましては、一番多かったのが「子育て支援施設の充実」「子育て情報や施設活用」「医療費の支援」、そして「近所のふれあい・気軽な交流の場」、その他としまして「子育て支援施設利用料の支援」「安全なこどもの居場所」「3人目以降の子供に対する支援」「異世代間交流」「身近な体験施設」などがございました。

その中でも主なものを紹介させていただきますと、

- ・既存施設をもっと利用しやすくするため利用予約方法・手続きを簡素化してほしい。
- ・制度や施設はあるのだが、その周知や活用がうまくできていないのでは。
- ・核家族化が進んでいるなかで、美浜区は他地域から引っ越してくる若い層も多く近所のつながりが少ない状況があるのではないか。
- ・多世代交流の場があり、お年寄りの方がニコニコとしていてもらえればそれだけでも良い。
- ・医療費制度は頻繁に内容を変えずに定着・継続させていくべき。

というものがございます。

2つ目のところの「制度や施設はあるのだが、その周知や活用がうまくできていないのでは」というものでございますが、こちらはアンケート結果では、「子育て支援施設や制度について不足している」という回答がある一方で、「充実している」という回答もあるということにあらわれていると考えられます。

次に、2つ目の美浜区を子育て世代にとって「魅力あるまち」「住み続けたいまち」にするためのアイデアでございますが、一番多かったのは「安全安心に住めるまちとする」、次いで「子育て世代向けの情報の整理・充実」「教育環境の整備」、その他としまして「こどもや妊婦の医療費拡充」「近所のつながり」「多世代交流」「こどもの地域・まちづくりへの参加」「共働き世代への対応」「地域内での多世代交流ができる場・イベント」「子育て支援施設・病院の充実」「若い世代の住民を増やす」「子育て世代への住宅支援」「身近なミニ動物園」「スポーツジムなどの交流施設整備」「親子で楽しめるオシャレな商業施設」などがございました。

その中で主なものを紹介させていただきますと、

- ・若い人は子育てにおいてもインターネットの情報を頼りにすることが多いので、イ

インターネットで情報をもっと発信すべきではないか。

- ・ 現在の子育て支援施設を活用できない年代の子どもの遊び・勉強・交流の場が必要ではないか。
- ・ 近隣とのつながりが一番だと思う。つながりの中で子どもなどの若い世代が地域に参加、将来は地域の担い手ともなるべき。
- ・ 既存の公園の多くは外周部に木が配置して見えづらいので、外周部の木を中に移して中が見える安全な公園に。
- ・ 若い子育て世代は教育が一番関心を持っているので、教育環境のさらなる充実が必要。
- ・ 地域内の集う場としての学校で親子が楽しめるコンサートイベントなどを開催。
- ・ 共働き世代が多いことなどから多世代交流などにより地域全体で子どもを見守っていく仕組みが必要。
- ・ こどもが地域まちづくりに参加（ごみ出し、話し相手、買い物など）するようにして、まちを活性化、こどもなどの若い世代をまちに増やす。
- ・ 子育て世代向けの集合住宅などの空き室の有効活用（家賃優遇等）。

などがございました。

以上のように、インターネットなどの情報発信に関するものや子どもの地域全体での見守り、多世代交流など、若い世代、共働き世代に関する多くのアイデアがございました。

最後の3つ目、「子育て支援の充実」以外の若い世代を美浜区に呼び戻す方策等についてでございますが、最も多かったのは「魅力あるオシャレで元気なまちづくり」、次いで「住宅環境の整備」、その他としまして「住宅コストの低減」「安全安心のまちづくり」「地域コミュニティ」「美浜区の特徴である『海辺』の有効活用」などがございました。その中で主なものを紹介させていただきますと、

- ・ 申込が簡単でだれでも参加できるような若い世代に魅力あるイベントの開催。たとえば、いなげの浜・QVC マリンフィールドを使ったスポーツ大会など。日常的に様々なイベントがあれば注目が集まり、その周辺に住みたいと思うのでは。
- ・ 2・3世代で一緒に、または近くで暮らせることが望ましい。そのためには職場が近くにあったり、交通の便が良いことも必要。
- ・ ファッション性を取り入れ、環境もよく、子育てしやすい地域に。団地をおしゃれに改装。
- ・ 少子高齢化ばかりを抱えているのではなく、全世代の元気をアピールしたおしゃれなまちに。
- ・ ハード面の住みやすさだけでなく、内面的（近隣のふれあいや地域コミュニティ等）の住みやすさも重要。

というものがございました。

主な意見としまして最も多かったのは、「魅力あるおしゃれで元気なまちづくり」に関して、「美浜区の海辺を生かしたイベント開催」や「おしゃれな街」ということで、「若い世代向けの団地のリニューアル」などがございました。また、「住宅コストの低減」に関連しましては、2 つ目の質問でも意見がございましたが、「団地の空き室の有効活用」としまして、「若い世代向けの家賃優遇」などのご意見もございました。また、埋立地であることなどから、「震災に強いまちづくり」に関してのご意見もございました。

簡単ではありますが、説明は以上でございます。

この後、休憩を挟みまして、再開後は、皆様方と区長によります意見交換となりますので、事前アンケートのまとめや、先に画面を使って説明しました美浜区の現状等の説明などを踏まえまして、活発なご意見等をいただければと思いますので、よろしく願いいたします。

○司会

それでは、これで前半の内容につきまして終わりたいと思います。

5分間休憩をとらせていただきます。こちらの時計で2時20分まで休憩をとらせていただきます。20分に再開したいと思います。お疲れさまでした。

(休憩)

○司会

それでは、お時間になりましたので、前半の美浜区の現状、事前アンケートまとめなどを踏まえまして、意見交換に入りたいと思います。これからの進行につきましては、土屋区長をお願いいたします。

○美浜区長

それでは、前半の説明に続いて、皆さんの直接の意見を賜っていきたくと思いますが、限られた時間ですので、余り枝葉を広げてしまおうとなかなかまとまらないので、基本的には皆さんのアンケートに基づいた3つの柱、「今、充足しているもの、充足していないもの」、また、2番目が「もっと子育てに魅力をできるものは何か」、それから「子育て以外で、この地域に若者を呼び戻すことができるのか」、この3つぐらいを順に議論して行っていただきたいと思います。

最初に、「充足しているものと充足していないもの」というアンケートをいろいろいただいたのですが、例えば医療費とか施設は、片や「足りている」という人と「足りていない」という人、2つ上がってくるわけです。これは皆さんのお手元にうまく行政側の情報が届いていないということなのか、それとも絶対的に足りていないのか、その辺のところをお気づきの方があったら、どうぞ教えていただければと思います。

Vさん、どうぞ。

○参加者V

子どもの医療に関してですけれども、我々の年代は300円というのを知らない方が多いと思うんですね。ただ、子育て中のママたちはすごく喜んでます。一度かかったのが300円だし、それ以上かかればまた返してくれるから、子育ての医療費に関してはすごく助かっているという意見、こんないい制度があるんだったらお医者様にすぐ連れていくほうが安心というのをママたちが言っているので、医療費のほうは足りていると思います。

○美浜区長

Vさんは足りているというお話ですが、実はなぜ300円かという話があります。最初はたしか200円だったかと思いますが、これはいろいろ議論がありまして、いっそのこと、ただにしまえ、300円も取るのではないとか、いろんな議論がありました。だけれどもそれを全くゼロにしまうと歯どめがきかないということで、とにかくお子さんの健康に気をつけてもらうということでも、最初の少額の自己負担というのを入れているというのが実態なんですけど、その辺について皆さん率直なご意見を、どうぞここは遠慮なさらずに。

○参加者S

住んでいる地域で温度差があるんじゃないかなと、数字的にはそう思いました。

それから、今は何でも無料、無料とか、ボランティアであったり、子育ても本当に産んでもらってありがたいという、私たちの世代としてはちょっと苦い顔をしたいなという世の中になってきていると思うんです。すごく恵まれていて、私たちは本当に2人、3人を1人でお風呂に入れたりしながら、助けてもらえるような状況ではなかったので、今はとっても恵まれているなと思うんです。

医療費にしても、かかって当たり前だし、そういうことに対して生きるというか、そういうことに対してお金を儲けるとするか、そういうことも大事なので、今、ただにしたらどうかというのは全く反対だし、やっぱり子育てするのは、そういう努力を見せるというのも子育ての環境じゃないかなと思います。

○美浜区長

ありがとうございます。

VさんとSさんが充足しているというほうなんですけど、Mさん、どうぞ。

○参加者M

何をもって充実しているかどうかという感じ方にもよると思うんですけれども、例えば、未就学児の方を対象にそういうことを聞けば、1回につき300円で大変ありがたいという話は返ってくると思うんです。それはそうだと思うんですけれども、うちは一番上の子が小学校3年生で、年長さんと年少さんと3人子どもがいるんですけれども、今はいいんです。ただ、これから養育費というのは、基本的には塾に通わせたり、あるいは学費とか、そういうところにこれから費用が、つまり年が上がるほど費用がかかることがわかっているにもかかわらず、小学校の高学年から医療費の支出も増えるということがわかっているところが不安だと思うんです。

何とも言いがたいんですけれども、今の世代を生きる我々としては、これから給料も増えるんだとわかっていればいいんですけれども、そういうことは余り見込めない。つまり貧乏なら貧乏で、こういけば定年まで暮らしていけるんだという見通しが立ちにくいところが非常に不安である。となると、子どもの病気になる回数というのは正直何も言えないので、回数に応じて上がっていくのはしょうがないにしても、一回一回の支出が抑えられていれば、多少子どもが病気をしようともその都度お金を――。私も無料には反対で、その都度ちょこちょこお金はかかるけれども、これぐらいの額だから年額にしてもこれぐらいでという計画が立てられるかどうかというところが子育て世代にはすごく重要だと思うので、私はアンケートのほうにはできるだけ上のほうの年齢までカバーしてほしいというふうには書きました。例えばそれが、小さい子は300円で、中学・高校までは500円でも別にいいと思うんですけど、ある程度の見込みが、病院に行ったらこれぐらいなんだなという見込みがあると、こちらとしても2人目をつくっても大丈夫かなみたいな話にもつながっていくと思います。

○美浜区長

ありがとうございます。

さっきのパワーポイントにも出てきましたが、今、中学生まで入院・通院を支援しなさいというご要望が極めて高いのですが、まだ中学生まで全部がカバーできていないというのが実態です。小学生のほうが入院・通院をカバーしているぐらいで、まだ中学生は通院もままならないぐらいですけど、そういうことをしっかり見通しを立てていただければというのが今のご意見だというふうに理解しています。

○参加者M

何でもそうですが、見通しが立てられれば、じゃあというふうになると思うんですけど、それが立たないから、子どもをつくるのを渋ったり、人数を絞ったりということになっちゃうんだと思うんです。

○美浜区長

今、医療費というお話がありましたけど、実際に医療サービスをしていただく現場、医院は、ご存じのとおり、産婦人科さんとか小児科医さんというのはお医者さんの中でも極めて今少なくなっております。私もここへ4月からお邪魔しているのですが、ここはなかなかあるのかなというような感じはちょっと受けます。皆さんお暮らしの中で、小児科医の絶対数が足りないとか、産婦人科医が足りないとか、そういうことからのご意見というのはどうですか。

どうぞ。

○参加者H

多分、地域間によって差があるのかなと思うんですけども、私はもともと真砂に住んでいて、今は打瀬に住んでいますが、真砂のほうのお医者さんは打瀬と比べて大分すいているなと感じます。打瀬ですと、小児科は電話できちんと朝から予約しないと行けないとか、大変な状況になっていまして、地域間の差がすごくあるのかなと思っています。打瀬に関しては、小児科医は全然足りなくて、危機的状況だと思います。

○美浜区長

打瀬の場合は、この中でも一番お子さんの多い地域でございますので、小児科医は数的にはあるのかもしれないけど、やっぱりお子さんの数の割には足りないのかもしれないですね。

そのほか、皆さん率直に、ここはこうしたほうがいいんじゃないとか、別に医療機関だけでなく結構でございます。

どうぞ、Dさん。

○参加者D

医療のことなんですけど、真砂地区は病院はいっぱいあるんですけど、いい先生か、という問題になってくると思うんですよ。私も、下の娘が小学校3年生で、ずっと皮膚科の病院に行っていて、こちらに引っ越してから7年ぐらいずっとかかっていたんです。補助がなくなるので一回違う病院に行ってみようということになって、その完全予約制の病院を変えたんですけど、そうしたら先日、診断としてアトピー性皮膚炎であったということがわかりまして、今まで行っていた病院はどうだったんだろうかということもありました。

助成金も今は小学校3年生までですよ。もうちょっと、やっぱり6年生までにしてもいいのかなと。結構、4年生、5年生、6年生が体が変わってきたりするので、病院にかかったり、心のケアも必要になってきたりするときなので、成長期でありますので、助成対象の年齢を、300円を小学校3年生までじゃなくて、小学校6年生までにちょっ

と考えてほしいなという意見が結構お母様たちのほうから出ております。

○美浜区長

秋葉課長さん、引き上げはどんなスケジュールで行くんでしたっけ。

○美浜区こども家庭課長

現状をちょっと申しますと、今、入院が中学3年生まで、小学生が入院・通院で無料というか、自己負担分を払ってやっているんですけども、現状としては、中学3年生までの入院は、県内は市を見ると全部行われています。それから、小学校6年生まで通院をみているところ、これは4市か5市ぐらいあります。千葉はほかの15～16市町村と同じなんですけれども、小学校3年生まで。それから、中学校3年生まで通院と入院をやっているところが13カ所ぐらいあります。今、県内はこのような形になっています。

今後ですけれども、いつ上がるかというのは、まだはっきり申し上げられないのであれですけど、いずれはほかの市町村に合わせていくような形にはなっていくかなと思います。

○美浜区長

要は、まだよくわからないみたいですね。いずれ上がるのだろうけどという話で。

子どもさんの病気というのは一番親御さんにとっては気がかりで、なるべく病気にかからない元気な子を育てていくというのは必要ですけれども、この美浜は、ご存じのとおり埋め立てたところへ人工的に町をつくったところなので、ある意味で言うと、このご意見にもありましたけど、自然が足りないとか、そういうところが否めない事実としてあります。そういうところから、いわゆる子育ての施設とか、例えば、きょうはハッピータウンのRさんもお見えになっていますが、元気な子というのは、どういうふうな元気な子なのかかわからないけど、自然とかそういうものに交わりながらたく生きていくような子ども、そういうのも病気にかからない一つの方法かなと思うのですが、そういう面で、子どもを本当にしっかり丈夫に育てていくという意味から、Rさんなんかのお考えとしてどんなことがあるのか、ちょっと聞かせていただければありがたいんですけど。

○参加者R

まず、外遊びというのは非常に大事だと思うんですけども、部屋の中ではなく、自分の体を使っていろんなことを学んでいくことがすごく今薄いと思うんですね。震災後ということもありますけれども、まず外に出したまらない子育て世代の親御さんが多いということ。でも、子どもは出たいんです。出られないからゲームだのいろんなことで室内にどんどん入ってしまっている。でも、昔は体を使って遊んでいましたよね、皆さ

んも。体も元気になるし、心も丈夫になって、その中で人とかかわることによって生きていく力をすごく育んでいくと思うんです。

外に出ればいろんな出会いもあります。特に幸町というのは高齢化になっていますけれども、高齢の方が多いいということは、その分、見守ってくださる人が多いということなんです。子育て世代の方たちは、いろんな経済の状況からも共働きの方が多いいですけども、お母さんに見てもらわなきゃいけない年の子に見てもらえないと、すごくさみしいお子さんもいらっしゃる。働くことは生きていく上で大事なことでと思います。でも、子どもの親になることを選んだ以上は、子どもの大事な時期、しっかり抱きしめていかなきゃいけないときには、なるべく近くにいてもらいたいというのはすごく実感なんです。自分の帰る場所がちゃんと確かめられているお子さんたちは元気に遊びます。で、そういう場所がないお子さんたちも来てくれます。地域で気になるお子さんたちが何人かいらっしゃいますけど、遊びに来てくれます。自分の親じゃなくても大人が誰か見ていてくれるということで、自信を持って、「次はいつやるの」と。

消防署などからいろんな許可を得て、火起こしもやっているんです。火でいろんなものを使って。マッチで火をすったこともない子どもたちが多いし、自分で危険な目にあわなければわからない。たくましく育つということは、守るだけではなくて、大人が本当に見守っていれば子どもたちはどんどん育ってくれると思うんです。ですから、大人として見守ることで、道筋を大人がつくれれば子どもたちはどんどん育ってくれると思うんです。体が丈夫になれば本当に心も丈夫になってきますし、そういった意味で、少ないですけど、子どもを見守る大人たちが増えていただきたいと思います。

○美浜区長

ありがとうございました。

そういうたくましい骨太の子どもに育っていただくのが一番いいんですけども、いかんせん働かなきゃいけない。特に最近、男女共同とかいろんなものがあって、お母さんも働きに出る。そうすると、やはりその間、子どもをどこかで見てもらわなければいけないしということで、さっきのパワーポイントにありましたが、今年も美浜区では保育所の待機児童が4人でした。これはいろんなお願いをしてずっと数を減らしたんですが、今年も、こども未来局のほうでものすごく頑張らして、また受け入れの施設とかを結構増やしたので、何とかもっと低くしようと今やっているところです。実際、お子さんを預けたり、例えば小学校が終わって子どもルームに親御さんが帰ってくるまでいてもらうとか、そういう面で、こういうことをしてもらったほうがいいかなというようなご要望とかご意見はございますか。いわゆる、お子さんを預ける施設とか、そういうことに対しての何かご意見とか。

○参加者 S

私、先日ニュースを見ていまして、子どもが減っていっているのにかかわらず、その地域では子どもが増えていっているということを集めていたんです。それ 10 分ぐらいしてたと思うんですけど、とても田舎なんですよ。私ここにいっぱい書かせてもらって、2 枚にしてファックスを送らせていただいたんですけども、そこにあるアパートを子育て世代の人に本当に格安で 2 万円ぐらいにして貸して行って、おじいちゃん、おばあちゃんたちも、地域の人たちが、若い子が来てくれて、「ありがとうね」って、もう両手でウエルカムなんですよ。

私が住んでいるところは、やっぱり高齢化しているんですけども、子どもたちがうろろするのを下の家がうるさいと言ったりする。今言われたようなことは本当に理想的で、お年寄りの人たちが小さい子どもが来てくれたらいい、若い人たちがいっぱい来てくれたら活力があっていいわという、そういう心の豊かさというのをお持ちなのかなと。自分たちの生活を守るのに必死で、うるさいとか、足音が嫌だとか、そんなふうにつつき合ったりとか、ひどいのは、子どもが泣いていたら、「あなたのところで泣いてると、私のところは夫婦でほくそ笑んでいるのよ」と言われたというふうなことも聞いて、本当に背筋が凍るような思いをするんですけども、そこら辺のお年寄りたちも、美浜区に住んでいて幸せなのか。子育てが終わった私たちも、子育てをやったなという充実感があるのか。また、今、子育てをしている人たち、また、受験期の子どもたちを持って気持ち的には苦しいバトルの毎日を過ごしている人たちが、本当にどのぐらい幸せなのか。

ハード面ばかりでなくソフト面というか、私は一番初めに「田んぼや森がない」「変化がない」「商店街がない」というふうに、ないものをまず書いてみたんですけども、そういうふうな、何をつくった、何をつくったという箱物ではなくて、やっぱり住んでいる人たちが、その世代その世代の人たちがどんなに幸せか、その幸せ度で見守ったりとか応援したりとか、子どもがうろろしているだけでうれしいわというお年寄りがどれぐらいいるのかという、そういうことが本当に住みやすい、そこにずっといたいわという世の中になっていくと思うんです。

それから、団地が空いてきたら、中国の人とかいろんな人がすぐ入ってくるんですが、2 軒を 1 軒にぶち抜いてちょっと広くしてくれれば、狭くなったからよそへ行かなきゃいけないという——この人（隣席の人）は一戸建てだからそんなことないと言いますが、私は団地なのでそんなことあるんです。やっぱり狭くなったら引っ越さなきゃいけないというのを、2 つぶち抜いて 2 軒分を 1 軒にすれば広がるかなというふうには思います。

○美浜区長

ありがとうございます。

厚生労働省の統計を見ていると、4人に1人のお母さんが、子育ての悩みを相談できる人がいないとか、そんな統計が出ています。それとか、4割ぐらいの人が、いざ困ったときにすぐお子さんを預ける場所がないとか、そういうふうにお子さんにとってというより、子育てをするお母さんとか親御さんにとってそういうことが言われているのですが、その辺については皆さんいかがですか。子育てを経験された方、している方がきょうはいらっしゃると思うのですけれども。

○参加者N

今、急に子どもを預ける場所がないという話だったんですけれども、私はこの出身ではないので実家が近くにはございません。去年の暮れに私がちょっとけがをしまして入院することになったんです。その3年ぐらい前にも同じく入院したんですけど、子どもを預ける場所がなく、主人はやはり夜は遅いので、すごく困り、今回入院したときは子どもが6年生なので自分で夜やらせましたけど、そういう受け入れが欲しいです。

○美浜区長

Bさん、どうぞ。

○参加者B

私も3人育てておりまして、こちらの市に来たのが長男がまだ1歳のときで、やはり右も左もわからないような状態で子育てしてきました。長男と二男のときは、自分は仕事をしていなくて一人で見えていたんですけど、やはり生活もありますので、3人目のときは保育園に預けて生活してまいりました。

保育園にいるときは、時間も長く保育してくださるからすごく助かっていたんですけども、やはり問題なのは学童なんですよ。「保育園はいいのよ、あなた」とみんなに言われました。学童はその当時6時までしかやってくださらずで、そのときに子どもたちは6時になったら1年生から3年生までその場で帰されてしまう。夏場などはまだ明るくていいんですけども、冬場なんかは本当にもう真っ暗です。でも子どもたちは1年生であろうとどんなに寂しがり屋の子でも、一人で帰るんです。その辺が私はすごく心が痛かったし、私は時間が早く帰れるような仕事をもちろん選びまして迎えには行きましたけれども、ほかのお子さんたちはそれこそ一人で帰ります、暗い道を。街灯をつけてほしいと言ってもなかなかつかない。そういうこともすごく私は感じています。

3人子育てしている中で、上が2人男の子だったので、やはり私も「うるさい」と何度言われたことかわからないです。マンションです。でも、そういうことを言う方もいますけども、助けてくださる方もいました。私がぐあいが悪くなったときも、実家が遠かったですけど、近所の方が預かってくれるとか、そういうことがすごくありがたく

思ったので、やはりそういう見守ってくださる方というのが本当にありがたいなと思います。そういう環境をつくっていただけるようにして下さったほうが私はうれしいですね。

○美浜区長

ありがとうございます。

特に学童保育などのお話だったのですが、最初に申し上げました子育ての悩みというのは、いろいろあると思うんです。昔でしたら3世代ぐらいいましたので、お嫁さんだったり、義理のお母さんとか、そのまた上のおばあちゃんとかがいて、みんな子育ての先輩ですからいろいろ話を聞けたのでしょけれど、今はなかなかそういう環境にない。うちでもファミリーサポートセンターとか、いろんなものをつくってやっているようですけども、そういう面から、子育てを実際されていて育児の悩みとかはどうなんですかね。よく公民館なんかに行くと、お子さん連れのお母さんがたくさん集まっていたり、そういう光景を見るんですけど、実際、子育ての悩みとかを相談できる場とか、そういうものは足りていますか。——足りていますかと言いかたはおかしいんですけど、私はこういうふうに困ったことがあったわよとか、そういうご経験をお持ちの方はいらっやいますか。または、こういうことで助かりましたとか。

○参加者M

私なんかは、今、保育園とか小学校で役員をやっていたりすることもあるけど、知り合いのお母さんというのは非常に多くて、当然、上の子の同級生なんだけど、そちらにはさらに上のお子さんがいたりすると、さらに先達の「ああ、そのころはそうよ」みたいな話が聞けたりするんです。

若い人全体を代弁するのは難しいと思うんですけども、恐らく一般的には知らない人には相談しにくいというのがあると思うんです。用意されていても。そこに行ったらどういうアドバイスをされるのかがよくわからない。先ほど何かの電話相談のチラシがスライドにありましたよね。あれも、「まずはお電話を」と書いてあるんですけど、電話したらどうなるのかがちょっとよくわからないですよ。具体的に、例えば過去の事例としてこういうのがありましたみたいなのがホームページにあれば、まずホームページを見る分には、誰からも何も言われることなく見れますので、なるほど、相談するとこういうことを言ってくれるのかと。

結構不安なんです。ある意味で言えばコミュニケーション能力が低いと言われちゃうのかもしれないんですけど、「どうなるんだろう、これは」という。それが、例えば知り合いのお友達のお母さんとかであれば、全然普通に聞けるんです。何でも聞けちゃう。どちらかというと、子育てをしている人の悩みを聞くための窓口を用意するというよりは、地域の同世代の人と、子どもがいるいないにかかわらずでいいと思うんですけど、

どうコミュニケーションをとってもらおうのかというほうが、むしろ効果的なのではという気はします。

私なんかは団地に住んでいるので、団地の場合には管理組合とか自治会とかがあって、それがいろいろやってくれる分には、うまくそれに乗ってあげれば良いとは思いますが、けれども、窓口を用意すれば相談するだろうというのは、多分、若い人の感覚からはちょっと違うんじゃないかなという気はします。

○美浜区長

皆さん、ホームページとかって当然ごらんになりますよね。去年から子ども企画課というところで、子どものイベント情報とかをやっているんだと、ここに威張って書いてありますけど、ご存じの方いらっしゃいますか。ごらんになったことないですか。市役所のホームページをクリックしていくと、子ども企画課というところにたどり着くことができるんですよ。そうすると、そこに子どものイベント情報というようなものがいろいろやっただけなんですけど、そういうのは市役所でやっただけでも、実際に皆さんはごらんになっていないのでしょうか。

○参加者M

可能なのであれば、市役所が運営される部分に地域の、例えば私なんかは今、社会体育振興会の高浜地区というところに入っていますけれども、正直すごいアナログなんです。案内は常にプリントでという感じで、学校を通じて配るので学校関係の人には届くんですけど、未就学時の方には全然届かないというのがあります。そういう地域の活動、例えばコミュニティセンターでやっているサークルの方の発表会でも何でもいいんですけど、例えば子ども向けの何かですというものは、基本ここを見れば、市が主催だろうが、区が主催だろうが、何が主催だろうが大概載っているというようになれば、すぐく見ると思うんですよ。それが分散していると、そこだけ見てもねという、例えば千葉市といっても、やっぱり通えるところと通えないところがあるので、見たところでそんなところは遠くて行けないということになる可能性もある。ですから、そういう集合体の場をむしろ公的機関が用意してくださって、集約していただくみたいなことになれば、すごく有意義だと思います。

○美浜区長

わかりました。とにかく行政側のほうも、いろんな情報のお届けの仕方を、一辺倒ではなくてどうやったら皆さんのお手元にしっかり届けられるのか、これはもう一回検討しなければいけないですね。

○参加者M

いい活動をされていても、年配の方が中心だとホームページとかがなかったりするの
で、もったいないと思うんです。

○美浜区長

うちが皆さんにお答えするのは、どうやって知らせているんだというと、市政日より
とホームページ、この二言しか出てこないの。

○参加者T

私のほうから。「ひよこの会」をやっております。私たちの「ひよこの会」、もしくは
社会福祉協議会でやられている地域で必ずやっているところが、0歳の生まれたときか
ら、私のほうは3~4歳ぐらいまで預かって月1回やっておりますが、ほかのところも、
打瀬地区は月2回、ほかは大体月1回やっております。それをお知らせするのは、2カ
月児訪問といって、地域に2人ぐらいいらっしゃいます母子保健推進委員の方、赤ちゃ
んの2カ月目に健康診断にお伺いするという人が任命されていらっしゃいまして、その
方々が2カ月の赤ちゃんを訪問していくんですけども、そのときに私たち社会福祉協
議会がやっている子育てサークルのほうのチラシをお持ちいたしまして、「公民館とか団
地の一室でやっておりますので、どうぞ行ってください」というふうに言いつつ、健康
課と連絡しながらやっているようなことで、ここに並んでいるんですけども。

母子手帳を配布するときに子育てハンドブックというものを行政がつくっていただい
て、地図とともに、場所、保育園、小学校、全て小学校を卒業するまでのことが載っ
ているものがあります。でもお母様たちはどうされているかわかりませんが、本棚の中
にずっとしまい込まれているというような現状がありまして、そこを見ていただければ、
ホームページを見ることなく全部全て載っています。私たちはそこで活動しておりまし
て、もちろんホームページにも載せていただいていますし、地域のことは地域のことで、
本を見ながら学校はこうだとか、ここら辺がちょうど中間地点となりまして、いろい
ろなお話をお母様方から聞きまして、それを受け答えるというような、ちょうど中間地点
に当たるかと思えます。そういうふうなのはちゃんとここにそろっておりますので、た
だお知りにならなかったのかなと。

それと、幕張西地区は浜田地区と一緒にしているんですけども、「マウス」という
団体がありまして、そこが全てホームページを持っていまして、体育のほうなんですけ
れども、小学校のイベントなり、私たちのイベントなり、いろんな地域のものを載せて
くれている団体もありますので、私たちの地区の活動としては、足りないところは幾分
もあると思いますけれども、お話しされているのはクリアされてきているのかなと思っ
て聞いていました。

○参加者M

冊子が微妙だなと思うんですよね。さっき市政だよりとかのお話がありましたけど、それをもらったときに必要だと思わずに、後から必要になったときにそれがすぐに手に入るのかという。

○参加者T

入ります。私たちも冊子を持っていますし……

○参加者M

その冊子が本当にすぐ出てくる場所にあるんですかね。それは皆さんの管理の問題ですよ。皆さんは配られているからあると思われているでしょうけど、こちらとしては、「どこだっけ、あれ」「もう捨てたかも」みたいになっちゃう。

○参加者T

必ず頼んでいるはずなんですけど、健康課のほうが。

○参加者M

インターネットであれば、基本的にはすぐにそこに行けばあるんだとなるので、探さなくていいわけです。

○美浜区長

そうですね。市役所でも今ホームページを少し工夫してまして、例えば引っ越ししたときとか、何とかしたときとか、その場合場合のタイトルをつけて……。なかなかそのときじゃないと、そういうのってちゃんと管理しておかないですよ。引っ越すときには何と何とどういう届け出をすればいいのか、そこをクリックするとそういうものがざっと出てくる。今おっしゃったように、皆さんがそこに直面したときに、そこを見れば情報が得られるような、そういう情報の提供の工夫はさせていただきたいと思います。

どうぞ。

○参加者H

ホームページって、やはり何ていうか、特に千葉市だと何か調べるために見に行くというイメージしかないんですよ。イベントとかになると、熊谷さんとか、あるいは庁舎の広聴課がツイッターとかに流しているんですけども、そういうものだとちらちら見て、なるほどきょうあるんだと知ることが結構多いので、そういういろんな手段をご検討いただけると、見ます。

○美浜区長

3つのタイトルを言っていたので、次に「子育てにとって魅力のあるまち」とか「住み続けたいまち」ということです。さっきのお話は充足とか足りない話で、これと結構連動しているんですけど、もっと子育てしている人に魅力のあるようなものが何かできないのかなど。

一つのここの特徴としまして、やはりこれから極めて高齢化が進んでいくということがもう予測されています。美浜というのは、高齢化の片割れにひとり暮らし高齢者が多いんです。これはもう、どんどん多くなっていきます。構造的な問題として一斉入居というのが原因で、当時働き盛りの人が今ちょうど65歳を超えていくと、ひとり暮らし高齢者と、次に多いのが高齢者夫婦世帯です。これはどっちかが入所なり入院するとひとり暮らしになってしまいますので、そういう特徴をここは持っています。そういう高齢者、子育ての先輩というかそういう方々。高齢者にとってみても子どもと一緒にいるときは楽しい時間だと思うんです。一つのヒントというか材料なんですけど、そういう区の特徴を使って、もっとうまく、さらに魅力を上げられるようなことって何かございますか。

○参加者R

幸町でなんですけれども、地域と小学校との連携をしまして、人材バンクの一つとして、名前を「人生万歳」というんですけれども、地域の方たちが、シニアの方たちもそうですし、私たちPTAの世代もそうなんですけれども、学校に来ていただいて、子どもたちと昔遊びですとか、家庭科の授業に入るとか、そういったことで交流を持っております。

私も中1、小学校5年生、3年生と3人子どもがいるんですけれども、例えば中学生なんかもすごい力が余っていますよね。ボランティアということの一つとりましても、すごくかけ離れたものを感じている子どもたちが多くて、例えば公園の掃除一つにしましても、それはお年寄りのすることだと、ぽーんと答えが返ってくるんですよ。でも、小学生にしてみたら、自分たちが使っているところなので、放射能とかの問題もすごくありますから、親御さんたちも掃除をさせたくないとか、そういう気持ちもあるんですけども、地域の方たちと子どもたちのかかわる場というのは、地域と学校が連携してくれるとすごく進みますし、子どもたちは核家族が多いですから、おじいちゃん、おばあちゃんといってすごく喜んで、お年寄りのシニアの方たちも生きがいの一つにしてくださっているんですね。地域で本当に子どもたちを育てていただいているという、我が子もそうなんですけど、すごく意識があるので、全世代、シニアの方たちと私たち子育て世代と子どもたちと全部の世代がかかわりやすいような、例えば、たまたまプレーパークなんかも「子どもの冒険子どもの遊び場」といううたいなんですけど、全く子ども

だけのものだと思っていなくて、地域の方たちが来て、本当にただ愚痴だけこぼしに来ることもあるんですよ。さんざん愚痴を話して、その後会ったら、「悪かったわね、今度おやつでも持っていくわ、子どもたちに」と言ってくれて、そういう居場所、子どもだけじゃなくて……。

あと、たまたま「子育てサロン」というのがありまして、行徳ですとか東京のほうに、隣の同じプレーパークをやっていますQさんに行ったことがあるんですけど、子どもに関することをいろんな、例えばプレーパークですとか、お隣のひよこさんのようなことですとか、そういうのを全部まとめたものを一遍にドカンと場所を借りて発表しているんです。そうすると、ベビーカーを押しながら親子連れがすごくたくさん来ているんですよ、驚いちゃったんですけど。そういうことを紹介する場は、美浜区は大きくなると千葉市になってしまうんですけども、そういうものがあれば、ロコミでもそうですし、例えば幸町の社協でやっています、隣のひよこさんのように、「ぐーちょきぱー」というのがあるんですけど、そこも月一回の集まりで、生まれて3カ月の赤ちゃんを連れてくるお母さんもいらっしゃるんですね。子育てで不安を持って、どこに行ったらいいかわからないけど、ここでまず親御さんはお友達づくりをしている。子どもたちがそこで一緒に育っていくというように、居場所づくりというのは年齢にかかわらず大事ですけど、その「子育てサロン」のように、ここに行ったら全部一目瞭然でわかるというようなものも美浜区であったらいいなというのは思いました。

○美浜区長

ありがとうございます。

確かに、幸町さんの幸町第三小学校では高齢者の方が学校へ行行って、掛け算九九とか、ベーゴマとか、ミシンとか、そういうものを教えているんだそうですね。お子さん方も掛け算九九とか、ふだんミシンなんかは使わないんだろうけど、それを楽しみにやっているということで、双方が楽しみながら時間を過ごしているという、そんな話だと思います。

幸町といえばパトロールがすごく有名で、お子さんの登下校なんかも高齢者がちゃんと見守っていただいているということで、そんなお子さんの登下校なんかも含めて、こういうことをしたらもっとこの地域に子育ての魅力が向上するのではないかなとか、いろんなご意見があるかと思いますので、どなたでも結構でございます。理屈になっても結構です。こういうことだったらどうですかと。

○参加者A

私は、いろんなこと、例えば足りないもの、足りるもの、自分でよかったと思うもの、いろいろそれぞれ年代も違うし、違うと思います。ただ、物を与えたり、お金で買うこと、いろんなことであるんですが、それよりもやっぱり精神的なことって本当に大事な

のではないかなと思います。皆さんこちらに参加されている方はそれぞれの地域でボランティアからいろいろなことをされている人が多いと思います。人のために何かできるのかということの、そういうボランティアの精神を私たち大人が子どもに示さなければ子どもも真似はしないのかなというふうに感じます。私も上の子はもう大きくて、一緒に住めればいいと思いながらも、住宅のことやら子どもの仕事のことやら、そういうことでやはり離れて住むこともあるし、その子たちが将来また私たちと一緒に住めれば最高と思ったりすることも多いです。

学校の役員一つをとっても、やはり今、皆さん自分でやるという方は本当に少ないです。くじで役員選もなったりします。そういうときに、私もなかなかわからなくて、いろんな役員のことも知らなかったですが、その方たちと知り合ったからやはり広がったなというのはすごく感じます。小中の役員は特に地元が多いので、そういうことでも自分の悩みを相談できる人はできてくると思います。自分たちが大人として、自分たちの子どもにまずは何が大事かということ、物がなにか足りないとか、そういうことよりも、人に何かできることを一つ一つ、なかなか自分も示されてはいませんが、自分が一生懸命やっていることを見せていくとか、そういうことが一番大事なのかなと感じました。

○美浜区長

ありがとうございます。

今日お集まりの方々って、結構お子さんの数が多いのかなと思うんですよ。お話を聞くと3人とか。今、合計特殊出生率は1.3ぐらいですよ。やっぱりひとりっ子のご家庭って結構多い。そうすると、強いままではなく、ひ弱なままになっちゃうのかもしれないけど、そういうことで子育てとかいろいろなものが問題になってくるのかもしれない。最近、子どもの発達障害とかそういうものも結構目につくんですけど、せっかくきょうは保健福祉センターの大木所長さんが見えていますので、振っちゃいますけど、実際、お子さんの発達障害って最近どうなんですかね。

○美浜保健福祉センター所長

急に振られましたのであれですけど、厚労省なんかも一応調査などはしているんですけども、実際難しい数字だということはおわれています。本当に子どもさんのうちの6%近くが発達障害ではないかというふうな話も上がってはいます。実際に3歳児健診が終わった後、その後、就学前までは健診がないということで、5歳児健診をやってみてはどうかという話もちろちら、ほかの市町村なんかでは聞こえてきます。

親御さんにとっては、うちの子はおくてだから、ちょっと遅れているなとかという分で見ているんですけども、専門家が見るとやはり発達の部分があるのではないかと。特に保育所とか幼稚園なんかで5歳児を中心に専門医あるいは専門の方々が診察すると、

1 クラスに何人かいるというのは聞いております。そういった面では、今、千葉市も発達障害者支援センターが高浜の療育センター内にありますけれども、そこに専門の相談機関があるという形でございます。

大きくなられても、能力的には非常に高い、大学にも行かれています方々なんですけれども、どうしても就職に当たってコミュニケーションがうまくとれないとか、社会性がないということで、なかなか定職につけないような方も実際はいます。そういった方の就労支援も含めて、千葉市もやっと動き出しているという状況でございます。

以上でございます。

○美浜区長

発達障害って心の関係で折れてしまうというのをよく聞きます。ちょっとそんな話題に振ってしまいましたが……。

では、今日は若者を美浜区に何とか呼び戻したいということで、一つの方策として子育て環境を改善したらというのですが、子育て環境の改善以外で若い世代の方々を美浜においでいただけるようなこと、例えば、今、統計の調査なんかを見ていますと、ここには6万世帯ぐらいがあるのですが、そのうちの2万世帯ぐらいが実はURといって昔の住宅都市整備公団、それとか県営とか市営のいわゆる公営住宅が約4分の1ぐらい占めています。これも美浜区の特徴でございますけれども、そういう住宅環境などを含めて、例えば幸町あたりはURの住宅も大分古くなってまいりまして、若者には余り好まれなくなってきている。住宅の建て替えというのは、おいそれと今日、明日にはいかないのですが、そういうものも含めて、例えば子育て以外にどうしたらこの地域に若い世代の方が来てくれるようになるのか、いろいろなアイデアでも結構なのですが、ご示唆いただければと思います。

○参加者S

何度もすみません。うちはもう28歳、27歳、24歳という子どもで、その子たちを育てているときといたらもう二十数年前になるんですけど、やっぱり東京のほうから真砂の中学校がとってもいいのでそこへ引っ越してきたというのがあって、今日はまとめの中には一個もなかったんですけど、学校の充実というのはすごく若い人を呼ぶのにはいいと思うんですね。

美浜区の小学校とか中学校って、余り特色がないように思うんですけども、今聞いていましたら、幸町のほうはそうやって地域の人たちを呼んだりして、私はすごいモデルだなと思ったんです。やっぱり学校側が積極的に地域の人たちを「来てください」「ウエルカム、ウエルカム」って呼ぶ必要があると思うんです。そうじゃないと、こっち側からは「行きますよ」というふうにはなかなかないもので、そういうふうなことを学校側が積極的にやっていくことを区が推奨するということが一つ案としてあります。

もう一つの案は、美浜区というのは団地やマンションがすごく多いので、その団地の中でお年寄りと子どもたち、集会所はどこにでもあると思うんですけども、そういうところを上手に使うように、ちょっと助成金を出したりして推奨していくとか、お年寄りの人たちの発表会があるとか、そんなふうにしていくと、うちの団地はこんなふうにお年寄りと子どもたちが交流しているんだよみたいな、そんなことがあればいいなど。

私はマリンハイツというところに住んでいるんですけど、マリンハイツの集会所で子どもたちとお年寄りが週末とかに囲碁をしたりマンガを読み合いしたりとかするような、そんな施設になったらいいなと提案したことがあるんです。自分の団地の中では取り上げてはもらえなかったんですけども、やっぱり高齢の人と子どもたちが寄れるような場所、そうしたら学童とか行かなくてもその団地の中のお年寄りたちが見守ってくれるみたいな、そんなふうになると安心してそこの地域で子育てしたいなというふうになるんじゃないかなと思うので、提案します。

○美浜区長

ありがとうございました。

Bさん、どうぞ。

○参加者B

今、Sさんがおっしゃった地域の方が学校にというのは、すごく私もそう思います。あと、小学校のほうは、地域の方との「むかしあそび」で、ボランティアの方といろんな知識の交換みたいなものもいいんですけど、今、下の娘が中学2年生で、塾のことがうちは切実なんですね。はずかしながら成績も余りよくなくて、塾もなかなか高額なんですよ。1人ぐらいだったらいいんですけども、2人3人となるとものすごく負担なんですね。一つの塾で月2万から3万かかります。入るのに入塾テストもちろんありますし、学校のほうでもうちょっと子どもの勉強のフォローをしてくださるとすごくうれしいんです。先生の放課後の時間を奪うのはとても申しわけないんですけども、やっぱりついていけない子どもというのはたくさんいると思うんですよ。そういう子たちのフォローというものが中学生はとても大事だと私はすごく思っていますので、その辺のところ、よろしく願いいたします。

○美浜区長

美浜にはあまり大学というのはないんですけど、外語大が一つありますね。逆にそういうところとうまく交流をして、あそこは8カ国語ぐらい教えているのかな。そういうものでも少し大学生と交流して、塾以外で語学を教えられる機会とか、そういうことも何か一つのヒントなのかもしれませんね。

○参加者B

学校がいいです。

○美浜区長

学校がいいですか。そうですか。

この間もちょっと、打瀬という地域でいろんな会議を1年間通してやったときに、千葉大の大学院生が4、5人手伝ってくれて、いろんな基礎数値から全部出してくださりまして、非常にいい資料をつくっていただきました。千葉大は稲毛ですけど、大学に声をかけると協力してくれます。今は学生たちでもどんどん協力してくれますから、そういうことをいろんな面で若い人たちに協力してもらおうといいのかもしれないね。

学業というのがありましたけど、あとは何かほかに。どうぞ。

○参加者M

私も、中学校とかで、中学生を育てるということにプラスして、学力をどう向上させるかというところは、もう少し力を入れていただければいいかなと思ったのと、あと、地域の人に学校に入ってもらいたいというのはすごくいいことだと思うんですけど、先生がノータッチというわけには多分いかないと思うので、そうすると先生の負担は増えるんですよね。先生方の負担軽減はどうなっているのかというのは個人的にちょっと気になるところで、できる先生は割とこなせるんですけど、できない先生——という言い方はちょっとあれですけども、そこまで器用じゃない先生はすごく大変そうみたいな、それを職場としてどうカバーしていくか、どう育てていくかというところまで至っていないんじゃないかなというふうに小学校を見ていてちょっと思う部分があって、別にだめな小学校だとは全然思わないんですけども、大変そうだなというのはすごく思います。

昔に比べると恐らく学校に期待するものが増えていて、学校のほうも多分いろんな事情で書類とかも増えていて、先生の負担は増えていて、でも地域の人はやってほしいことも増えていて、みたいになっているんじゃないかなというところはちょっと心配。今のところは、そんなに目に見えてだめということはないんですけども、何か心配だなというのがあります。

それと、子育て世代以外の若い世代にアピールできるものが、正直、美浜区にはそれほどないと思うんですね。新しくつくるのは相当難儀なので、どっちかというところ子育て世代を呼ぶほうがむしろいい。若い人が来ていいよと言うから友達も引っ越してきちゃうみたいなのを目指すほうが、まだしも若い人を引っ張ってこれるような気がするんですが、強いて子育て世代以外の人を引っ張ってきたいというのであれば、幕張メッセで結構いろいろイベントがありますよね。海浜幕張駅には、本当にもうふだんは見かけないような客層の人が、土曜日、日曜日にはたくさん来るわけですよね。そういうイベントとかで、美浜区に住んでみませんかみたいなパンフレットとか、そういうアピールと

かをちゃんとしないと、メッセに来ているだけだと、正直、周りを見ないですから。

来たときに例えば平均家賃はこれぐらいですとか、あるいは学校がどうだとか、アピールできることは全部冊子に入れてアピールして、1,000人のうち990人が全然見なかったとしても、10人見ればもしかしたら、しかもイベント規模でいえば1,000人ということはまずないですから、何万人と来ますから、そうするともしかしたら100分の1は見て、そのさらに100分の1が引っ越してくれば、それだけでも結構いいと思うんです。でも、そういう人は大抵友達とのつながりは残りますから、「引っ越したけど、いいよ」とかと言ってくれれば、なおいい。

どこでアピールするのかという、ホームページとかに載せても多分それほどは見ないので、来た人にここに住んだら幕張メッセにこんなにイベントがあつて、しかもそれがそばでというアピールをすると、多少は若い人にもアピールできるのかなという気はしました。マリスタジアムのCIとかでもいいと思うんですけどね。

○美浜区長

ありがとうございます。QVCとかいろんな施設がありまして、そこをうちのほうがさぼっていたのかもしれませんが。そこは貴重なご意見ですので、何とか区の特徴をパンフレットとかにして、ちょっとアピールする。

前半のお話で、先生の負担という話がありましたけど、幸町第三小学校は女性の教頭先生なんですけど、この方はめちゃくちゃやる気で、負担とも思っていないような感じで、今、小学校の先生も、実はさっき打瀬のお話をしましたけど、校長先生方も子どもたちにいろんなものを見せてやろうということで、いろんな町歩きとか、そういうことで土日なんかにお出になっていただくことにも全く意を介さず、本当に積極的にやってくれていまして、そういう先生が結構多ございます。ですから、うまくいけば学校も協力してくれるのかなと。学校が協力してくれるというのは結構大きな力ですものね。

○参加者M

できれば、この人はすごくいい人でやってくれますという、人に依存しないように何とかうまくできるといいなと思います。

○美浜区長

そうですね。

○参加者M

嫌がる先生もごくまれにいると思うので。目にしたことはないですけども、今のところは。

○美浜区長

やっぱり魅力をアピールするんだよという話でございました。

そのほかに何か、こういうことをやったほうがいいんじゃないのかなというのがございますれば。

どうぞ、Fさん。

○参加者F

美浜区って地味なところだと思うんですけども、多分日本一のことが一つありまして、さっき区長もおっしゃいましたけど、全世帯に対する中高層住宅の比率というのが多分行政区でくくったときに日本一になる可能性があるんです。先ほどおっしゃいましたけど、UR の分譲型は手は入れられませんけれども、賃貸の UR だったら、UR と協議することになるんでしょうけれども、魅力的な間取りにつくりかえて若い世代を呼び込むことはできると思います。恐らく 40 m²ぐらいなので、ちょうど 1LDK とか、内装を全部変えてみたいなのということが可能かなというふうに思っています。そして、若い人が定着すれば、そのまま子育て世代としていてくれる可能性があると思います。

あと、若い世代を呼び込むのにどこから呼び込もうとされているかと思うんですよね。美浜区が隣の花見川区から持ってきてても千葉市の中でけんかしているだけなので、明確に、地方から出てくる人が横浜市ではなくて千葉市を選んで、さらに美浜区を選ぶということを考えたときに、何ができるかなというのを考えたらいいのかなと思います。子育てもありますけれども、先ほどの区の特徴もありますので、そこを生かしていけるかなというふうに考えています。

○美浜区長

ありがとうございます。

美浜区は、今、Fさんがおっしゃったんですが、追加してご説明させていただきますと、戸建は全体の約 1 割です。9 割が中高層住宅という 3 階以上の住宅でございまして、戸建というのは約 1 割。そのうちの約 25%が公営住宅や UR なんかで占めている。ですから結構大きな比率なので、ちょっと UR にも——でも、なかなか難しいんですけどね。貴重なご意見ありがとうございます。

これはという決定打というのは、なかなかないんでしょうけれども、何かこういうことをしたらいいんじゃないかなというものがある、また、もう時間も押してきましたので、最初の足りているもの、足りていないものとか、何でもようございますので、これはちょっと言い忘れちゃったというものがありませんれば、どうぞ。

○参加者G

千葉市にはメッセとかもあって、美浜区には企業もたくさんあるんですよ。結局、

家賃が高いとか何とか言って、なかなかこういうところに住めないというのもあるかと思うので、企業さんとうまく連携がとれるのであれば、東京にある本社の人たちだったら、こっちに来ればもう少し会社としての家賃が下がるというのをアピールして行って、会社がこのままこっちに来てくれるようにする。社員の皆さんにも、千葉市とか、美浜区とか、花見川でもどこでもいいんですけど、近隣のこの地区に住んだら手当てを出しますと。会社としても通勤費が減るからできるんじゃないかと思うんですね。そういったケースが、つい先日、二子玉川だったか、やっていましたよね。あっ、すごいなと思ったんです。住んでいる方々は独身の方もたくさんいらっしやって、その方たちが「来たらとっても住みやすいまちだった。だから僕はずっとここに住んでいきたいと思うし、みんなにも紹介していくよ」というようなお話をなさっていたんです。

ですので、せっかく土壌としてメッセもありますし、もちろん会社もたくさんありますので、どんなお話を持って行ったらいいのか、それはわかりませんが、行政さんと企業さん、そういったところとの連携というのもあったらいいんじゃないかなと思います。

○美浜区長

ありがとうございます。

京葉線の海浜幕張とか検見川浜、稲毛海岸、実はここの乗降客は海浜幕張が千葉駅の約半分で1日5万人あります。検見川浜が1万9,000ぐらいで2万に届かないんですけど、稲毛海岸は2万1,000~2万2,000人。結構の方々が乗降されていますので、それだけいろんなところへ通勤・通学されているわけですね。ですから、今のそういうお話なんかは、二子玉川の例がうまくこっちもできればと。ありがとうございます。

○参加者G

今、ここからだほとんど東京に出ていかれているんですね。でも逆に、地方から海浜幕張なんかは朝本当にたくさん降りていらっしやいますから、そういう方たちがもっと近くに住んで、通勤も楽になってというようになっていけば、こちらにも住んでくれるんじゃないかなと思うんですけど。

○美浜区長

そうですね。ありがとうございます。

ほんの限られた時間でございました。もう時間が来てしまいました。今日は本当にありがとうございます。私と話したからといってすぐそれが実現するわけではないのですが、今日はいろんなご意見をいただきました。これをもとに一つずついろんなことに役立ててまいります。

最後に、ちょっと幾つかいただいたお話を見てみますと、あったもの、なかったもの

もありますけれども、一つは、子育て支援とかそういう活動をしていく皆さん、まさしく今日お集まりの皆さんを、やはり行政が支援していかなければいけないのかなというのが私の偽らざる感じです。

もう一つは、子育てをされている方、特にFさんのご意見とかいろいろありましたけど、千葉市ではURと包括協定というのを結んでいますので、こういうものを生かしながら若者向けの住宅とか、そういうものを少し増築して行って、皆さんにおいでいただくとか、お年寄りとか学生さん方、そういうさまざまな世代と交流ができるような場をつくって、骨太の子どもが育てばというようなことも一つはいいのかなと。

これはコマーシャルなんですけど、最近うちの区では人財バンクというのをやっていて、ここに私がぜひということであればご登録をしていただいて、そうすると、求めている方とコーディネートをするという人財バンクでございます。これでいいんだよね、立石さん。

それと、最後には、いろんな面で区の情報を、メッセもあれ、QVCもあれ、いろんなところがあるので、さっき言われたように積極的に発信していくというようなことで、1,000分の1、100分の1の方でも、それを見てご理解いただければお越しになっていたのかなと、そんなようなことだったのかなと思います。

このほかにもたくさんご意見いただきました。幾つか思いついたものをここに表示させてもらいましたが、今日お話ししていただいたご意見は、記録もとってございますので、貴重な参考にさせていただきます。

1時間20分ぐらいの時間でございましたけど、いろんなご意見をいただきまして、ありがとうございました。

○司会

本日は長時間にわたり、ありがとうございました。お疲れさまでございました。

以上をもちまして、平成24年度第2回美浜区区民対話会を終了させていただきます。

なお、会議前にお話ししましたけれども、机の上に置きましたアンケートのほうを、次回の対話会あるいは区の施策等に反映させたいと思いますので、退室の際に、今、職員が掲げておりますが、こちらの箱のほうにお入れいただきたいと思います。

お疲れさまでした。皆様、お気をつけてお帰りください。